



山家 慎閑

山家郷塾理念

一、自然の恵みと祖先の恩とに感謝し、日々お蔭さまの心を以て郷生の道を歩むこと
一、地域の歴史・文化・伝統を学び考へ今を照らし、故郷の振興と再生を図ること
一、永遠と続く歴史の中にある今を意識し、祖先から受け継いだモノを守り伝えること

みやび

この度は奥宮造営のご奉賛を賜わり厚く御礼申し上げます。大変有難くこの地で神主ができることを感謝致します。山家神社は大昔、人々が深く自然とかかわっていた頃祈り（感謝・畏れ）が生まれ、

神社ができ今に続いておりません。自然があり、そこに暮らす人がいて、祈りの場として神社がある。大河ドラマ「真田丸」で人は賑わうかもしれない。ですが当社としましてはたくさんのお陰をいただいております。地元が一番であり、この本質からは外れてはならないと考えています。

地元の方も楽しめる、学べる、ふれあえる、そんな工夫をして皆様になにかお返しができるかと思えます。自分ができることは少ないです。ですが真田には貴重な資源がたくさんあります。それを活用する、間に入ること、はできると信じて、今日も：切に追われ中 押森 慎

お寺とお宮の仲良し話

【おまいり編】 おまいりの仕方

神社仏閣でのお参り、違いはあれど手を合わせるという動作は同じ、これって素晴らしいことだと思いませんか？ 私たちは忘れてしまっているだけで、手というものには何か特別なものがあるのではないのでしょうか。

●手を合わせる意味

「手当て」という言葉、子供が怪我をした時にお母さんが手を当ててさすってくれて、不思議と痛みが和らいだことってありませんか？ 手は想いが通じる、想いを伝える場所なんですね。神社でお参りする前に手と口を清めることも、想いを発する場所をまづきれいにしてお伝えしようという表れです。たまには神様からいただいた自身の体にも手を当てて労わって、体の内から元気になりましょう。

●神社での拝礼作法

はつきり申し上げます。思うようにお参りして下さい。というの、大学を出て諏訪大社に奉職した一年目、形だけにこだわって心を置き去りにしていた自分がいました。それを気づかせてくれたのが、お参りにきていた八十歳くらいのおばあちゃん。ゆつくり礼をして、長いこと手を合わせていました。教わってきた拝礼作法から見れば、違います。ただその姿がまたなんとも言えず清らかで、自分が恥ずかしくなった覚えがあります。

「祈り」という言葉は「いのち」と「のる」という二つの言葉から成っているといます。このご時世に何を言っているんだと思われるかもしれませんが、「生かされている」ことに感謝することが、いのちを伝える（宣る）ことなのではないのかなあと。自分一人で「生きている」「んじゃない、色々なところ、人からお陰をいただいて生かされているんだと、そう思います。その心でお参り下さい。たくさんの本を読んでも（はい読んでないです、格好つけました）それがすんなり頭と体に入ってくるものではないか？ 申し訳ないのですが、自分は自身が経験した中で感じたものしか皆様にお伝えすることはできません。（勉強嫌いの自己弁護+△切が）とりあえず拝礼作法は「二拝二拍手一拝」です。

●余話として

人の生活から外れたところには神社はありません。神様（自然）、ご先祖様、人は共に暮しているのです。太陽に向かって、お山に向かって、何も無いところでもいいんです、手を合わせてみましょう。私も率先垂範で、まず一番身近な神様、かみさんに飲みに行ってもいいか手を合わせてみます。「くわばらくわばら」

秋祭りにおける
「ぼんぼり」
献灯ありがとうございました。
ございました。

☆入賞作品☆
↓
景品を差し上げます。



また灯そう

大祓式 十二月二十一日（日）午後二時より

一年の悪いものを落とす人形の祓いをします。

二年詣で 初詣 新春のご祈祷 厄除け祈願

なるべく神社におりますのでお出かけ下さい。